

1年生&2年生 Applied Japanese (10): News and Society (2年生&) 3年生以上 Japanese (80)a: News and Society シラバス

2017年 6月 16日 改訂

曜日・時限：金曜1限 教室：10-201

担当教員：松下達彦^{まつしたたつひこ} Eメール：***** 電話：03-***** (研究室直通) または 内線 *****

研究室：***** 面談・アドバイスを希望する場合：事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

(火曜・水曜の5限、金曜4限以降は研究室にいることが多い。)

授業の目標、概要

本科目は上位 10000 語のほとんどが理解できる上級レベル (プレースメントテストの語彙で 75 点中おおよそ 60 点以上) の学生のための科目である。本科目は日本語マスメディアを通して現代の日本社会や国際社会について理解し、意見を持ち、人々と議論できるようになることを支援する。

- 1) インターネット・新聞・テレビのニュースや解説番組など、日本語マスメディアで用いられる表現 (ニュースのパターン、慣用句、用語) を理解できるようにする。
- 2) 日本国内や国際社会のいくつかの時事的な話題について適切な知識を得る。
- 3) 周囲の人々と、時事的な問題について日本語で議論できるようになる。
- 4) 取り上げられた問題について、自分の考えを練り上げ、日本語で表現できるようになる。
- 5) 各種の日本語メディアについて知り、時事問題についていくため日本語メディアにアクセスする習慣ができる。
- 6) 各種メディアの特性を理解し、情報の質について、評価できるようになる。

授業のキーワード：時事問題、日本、ニュース、メディア、ディスカッション、

授業計画

*毎回の授業の初めにレポーターが取り上げるニュースは、以下のトピックと関係しなくてもよい。

6/9 ガイダンス、ニュースを見る視点 (最近の報道から)	7/14 メディアを比較する ②教育、介護・福祉・医療
6/16 ニュースの背景を知る ①政治 (国際・国内)	ポートフォリオ提出、共有
6/23 ニュースの背景を知る ②経済 (景気、政策など)	(7/20 : レポート提出 : ITC-LMSまたはメール添付)
6/30 ゲストトーク 仕事の現場、就職活動で大切なこと	7/21 ニュースメディアの将来を考える
7/7 メディアを比較する ①政治・経済 (国際・国内)	スポーツ・芸能、ローカル (東京)
レポートテーマ発表	ポートフォリオ返却、フィードバック

*トピックは、学生の要望や、その時々^{その時々の}のニュースによって変更されることがある

授業の方法

科目内活動としてFacebook上の科目専用サイトを使用する。特定のニュースをフォローすることが要求されることもある。(サイトにニュースが投稿される。) いくつかの話題 (「ナショナリズム」「経済格差」など) について、事前に読んだり視聴したりする材料が与えられることもある。教室では材料の言語表現と内容について確認した後でディスカッションを行う。インタビューやニュース論評執筆が「エクステンション」(ポートフォリオを作成する) 学習課題として奨励される。

1. 学生によるニュース論評：(1) 毎回一人ずつ、交代で担当する。Facebook上の科目専用サイトに投稿し、授業内で発表する。発表の内容は、1) そのニュースを取り上げた理由、2) ニュースの内容 (用語・背景)、3) 論評 (そのニュースについての自分の考え)。取り上げるニュースは、授業当日の前々日 (水曜) の夜12時までにFacebookに投稿し、当日は5分間で説明する。他の学生は授業 (金曜の朝) までに必ずそのニュースを読んでおくこと。Facebook上でもコメントする。
2. ジャンル別ニュース：「授業計画」に記した話題に関して、教員・学生が科目専用サイトに投稿したニュースなどについて、1) 内容の不明点を解消する (質問→教員や他の学生の回答)、2) 教員 (または参加学生) がニュースの背景知識について解説する、3) ニュースに関わる論点を設定し、みんなで議論する。4) 各自、論評を執筆し、ポートフォリオにファイルして整理していく。ポートフォリオは、①電子ファイル、②紙ファイル、③その両方 のどれでもよい。
3. スペシャル・トピック：教員の用意するトピック (ナショナリズム、経済格差、改憲論議、福祉と税制、東京の諸問題などが候補)。進め方は2と同じだが、科目専用サイトだけでなく、音声ファイルをダウンロードするようにメーリングリスト (ML) などで指示されることがある。

毎週 (できれば毎日) 各自で定時のニュース (決まったニュースサイト) を見たり聞いたりすることがのぞましい。科目内容の連絡などにMLを使うことがある。ML作成のため、履修者は教員にメールを送ること。

*できるだけ多くの授業にクラスビジター (ボランティアの討論者) にも参加してもらう予定である。

成績評価方法

以下の諸点によって評価する。2)と3)はどちらかを選択すること

- | | |
|---|------|
| 1) クラス活動 (ニュース論評、ディスカッション、科目専用サイトへの投稿・コメントなど) | 30% |
| 2) ポートフォリオ (インタビュー・レポート、ニュース論評など) | 070% |
| 3) レポート (「ある一つのトピックに関するニュース記事・論評を収集し、批判的に論じなさい。」 〆切: 7月20日) | 070% |

最終的な成績 : A+ : 100~90、A : 89~80、B : 79~65、C : 64~50、F (不合格) : 49~0。

*出席が70% (7回中5回) に満たない場合は自動的に F (不可=不合格) となる。30分未満の遅刻・早退は3回で欠席1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。

*提出物は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。(事故や病気により遅れて提出する場合は、証拠(例: 病院の領収証)を示すこと。)

「クラス内での活動」の主な評価基準

提出物の合評、発表後のディスカッション、教員の講義に対する質疑など、クラス内での活動全般について、以下の諸点などにつき、教員の観察により総合的に評価する。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ✚ 積極性、頻度 ✚ わかりやすさ、発言の態度・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいか ・発言は効果的になされているか ・他者と議論する際のマナーは適切か | <ul style="list-style-type: none"> ✚ 論理性・批判性 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づいた議論か ・異なる視点の提示や検討があるか ✚ 創造性・発展性 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい発想や刺激があるか ・新しい課題の発見があるか |
|---|---|

不正行為の禁止

試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられている。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければならない。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければならない。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となる。

履修上の注意

J5以上のレベルの学生が履修できる。その他の学生については教員の許可による。

学習リソース

教科書・参考書は特に使用しないが、『現代用語の基礎知識』(自由国民社)、『Imidas』(集英社、スマホ版・ケータイ版あり)、『知恵蔵』(朝日新聞社)などは参考になるであろう。

関連ホームページ

科目専用サイト <http://www.facebook.com/AppliedJapanesellG3J6>

NHK <http://www3.nhk.or.jp/news/index.html>

日本テレビ (読売) <http://www.news24.jp/>

TBS (毎日) <http://news.tbs.co.jp/>

フジテレビ (産経) <http://www.fnn-news.com/>

テレビ朝日 (朝日) <http://news.tv-asahi.co.jp/>

テレビ東京 (日経) <http://www.tv-tokyo.co.jp/biz/>

朝日新聞 <http://www.asahi.com/>

日本経済新聞 <http://www.nikkei.com/>

毎日新聞 <http://mainichi.jp/>

読売新聞 <http://www.yomiuri.co.jp/>

共同通信社 <http://www.47news.jp/news/>

アジアプレス (独立系) <http://asiapress.org/>

大学図書館のサイトから JapanKnowledge+ (データベースの一種) も利用するとよい。過去の新聞記事や『現代用語の基礎知識』『Imidas』『日本の論点』(文藝春秋社)なども調べられる。